



The Hara Research Foundation

公益財団法人 原総合知的通信システム基金
(略称：原財団)

■ 創設者	原 信太郎	1919年 東京出身 東京工業大学、慶応大学卒 サンフランシスコ大学名誉理事 元コクヨ株式会社相談役 1991年 当財団を創設
■ 評議員会 会長	原 丈人	デフタ パートナーズ グループ 会長
■ 評議員	伊藤 雅俊	株式会社セブン&アイ・ホールディングス 名誉会長
	黒田 章裕	コクヨ株式会社 会長
	竹中 統一	株式会社竹中工務店 取締役名誉会長
	矢作 恒雄	慶応義塾経営大学院 名誉教授
	山田 邦雄	ロート製薬株式会社 代表取締役会長兼CEO
■ 代表理事	原 健人	株式会社データコントロール 代表取締役社長
■ 理事	伊藤 信太郎	衆議院議員
	佐々木 浩二	株式会社アドイン研究所 代表取締役社長
	森永 規彦	大阪大学 名誉教授 広島国際大学 名誉教授・元学長
	神野 明彦	アキ・マネジメント プロモーション 代表
■ 監事	田嶋 英雄	コニカミノルタ・ホールディング株式会社 名誉顧問
	鳥井 信吾	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副会長
■ 選考委員	森永 規彦	大阪大学 名誉教授 広島国際大学 名誉教授・元学長
	新田 隆夫	総務省国際戦略局技術政策課長
	佐々木 浩二	中部大学客員教授 株式会社アドイン研究所 代表取締役社長
	王 健平	中国・北京大学 教授

フェロウシップ・プログラム

1991年の設立以来、原財団は、情報通信関連及びコンピューターと先端医療をつなぐ、総合知的通信システム領域において、秀でた基礎研究をしている若い研究者に対する助成(フェロウシップ)を行って参りました。中でも海外への論文発表のための渡航費用の助成を行っており、過去29年間で440名余りの優秀な研究者が当財団の助成を受けて、世界へと羽ばたいております。これからも年2回の助成募集を行い、より多くの研究者の助けになって行く所存 です。

IT関連セミナープログラム

1998年にスタートさせた、セミナー・プログラム企画は、毎回、各界でご活躍されている優秀な講師陣をお招きし、スタート以来、既に700を超えるセミナーを開催して参りました。
取り上げたテーマは、すべてIT関連分野のもので、モバイル・コンテンツ・ビジネス、BSデジタル放送、ブロードバンド・ケーブルTV、それに第4世代のモバイル・コミュニケーション端末など 多岐に渡っております。
セミナーは主に首都圏で年平均30～40回の割合で開催され、出席者は100人前後です。
セミナーに加えて、原財団では、毎年秋に米国シリコン・バレーへの調査・研究のための視察団を組織し、派遣する活動も行っております。
経験豊かな講師陣の講演会やセミナーを交えて現地のIT事業の実際を体験する試みを実施しております。

アライアンスフォーラム会議の企画及び運営

原財団のもう一つの重要な活動は、バイオ・テクノロジーやITテクノロジーの各分野におけるアライアンス(事業提携)を目的とする、アライアンス・フォーラム会議の企画及び運営です。
これらの分野における研究開発は、日々目を見張るほどの躍進を続け、特に産・学・官の間におけるアライアンスは活流化しております。
アライアンス・フォーラム会議において、私達は2つの大きな 目標を掲げました。
一つは、21世紀の新しい価値基準の想像です。
現代の常識として信じられている周知目標や、価値基準にメスを入れ、時代に即した、全く新しい価値基準を見出し、国内外に広く提言してゆこうというものです。
また、近い将来、コンピュータに替わるといわれている、PCUプラットフォームの開発研究・模索にも力を入れております。
もう一つは、日本のベンチャー企業家や、大企業、大学をスピノフした方々が創り出される優れた技術の中で、世界基準になる可能性を持つ企業を世界に送り出して行く仕組みを作ること です。これらの目標を踏まえ、原財団では、国際社会での優れたアライアンス・フォーラム企画を手掛けております。
テクノロジー・セミナー・プロジェクトテクノロジー・セミナーは、IT分野において卓越した技術を有する様々なベンチャー企業のCEOの方々をお招きして、プレゼンテーション形式のセミナーです。
このセミナー開催の目的は、これらのベンチャー企業が有する、世界標準に成りうるよう、優れた技術をより多くの人々に知っていただくと共に、将来彼らの良きパートナーとなる可能性を秘めた、企業あるいは個人との出会いの場を提供することです。

【財団のめざすもの】

コンピュータ・サイエンス分野とバイオ・サイエンス分野は比較的近い将来、融合し、ある部分では切っても切れないひとつの研究領域へと進化発展していくものと考えられます。

"Computing is Networking" という言葉がありますように、コンピュータの原理を掘り下げていくと、ネットワーク通信の理論そのものに突き当たって参ります。

そしてより人間社会に役立つコンピュータの研究を進めていくとなると、電気信号の伝達理論である神経のメカニズム、細胞間の通信メカニズム、遺伝子間の複合通信の仕組みを解明していくことが必然となっていきます。

正にバイオテクノロジーやライフサイエンスの領域にコンピュータ・サイエンスが通信という不変の原理として融合していく訳です。こうした原理を解明することができれば、バイオテクノロジーの分野でも、今まで不治の病とされていた難病の原理解明が行われたり、また、コンピュータテクノロジーの分野でも、より人間に近い、使い易いシステムが出来上がっていくことになるでしょう。

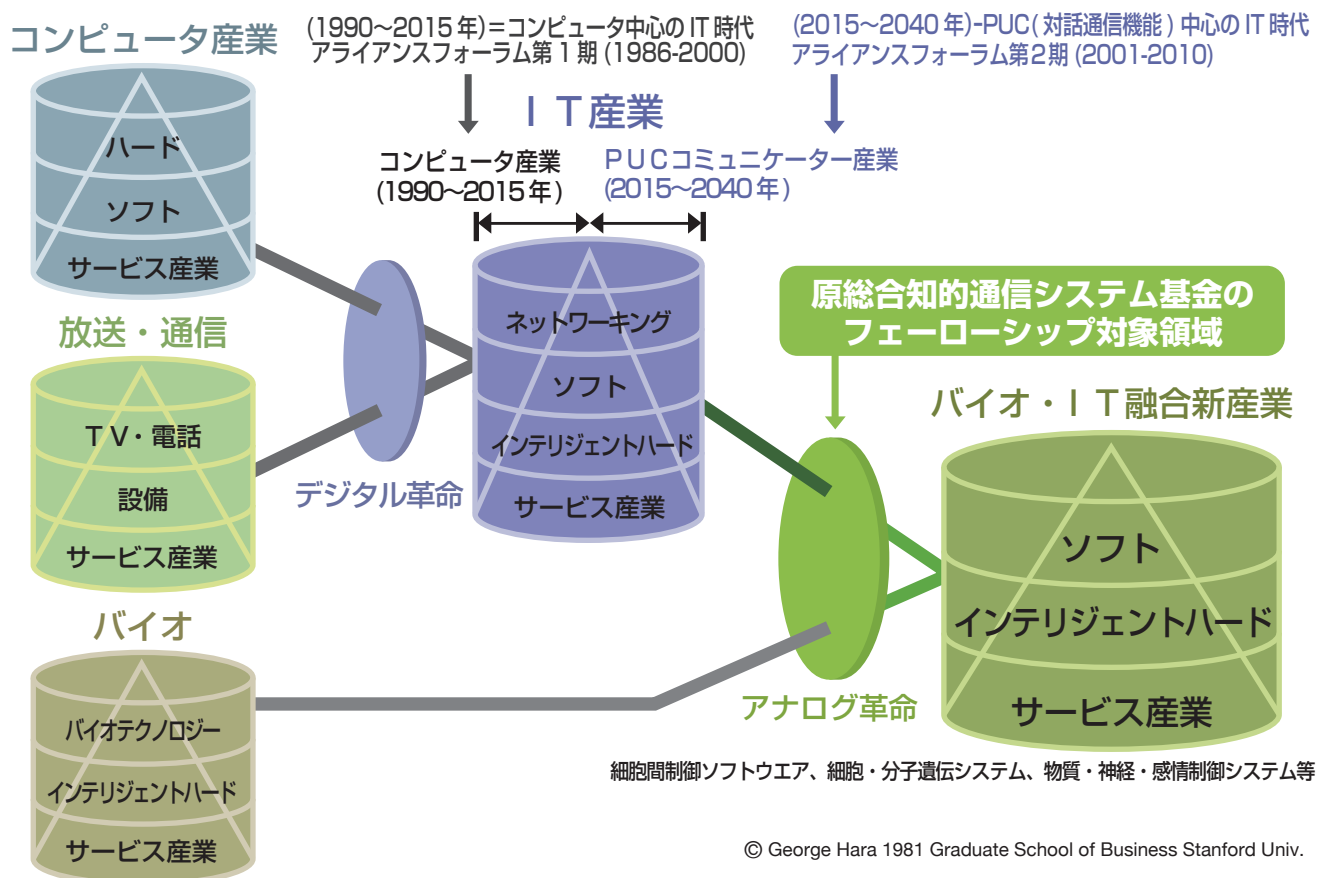
原財団は、コンピュータとバイオをつなぐ、総合知的通信システム領域において、秀でた基礎研究をしている研究者に対する助成(フェローシップ)を行うことを事業の一つとしております。

また、アライアンスフォーラムを米国アライアンスフォーラム財団と共催で開催し、国際交流の促進に貢献するとともに、TMO(Technology Marketing Office) の推進を行い、国境を越えた産・学・官の間のアライアンスに貢献していきたいと考えています。

【財団の目的】

この法人は、知的処理と情報処理が高度に融合した総合知的通信システム(以下「総合システム」という)を実現するため、情報通信におけるAI技術(人工知能技術)、マルチメディア通信技術、コンピュータ間通信技術、生体情報伝達システム技術等に関する研究調査を行う者に対する助成等の支援を行うとともに、学界及び産業界の連携を仲介することにより、上記新技術の事業化を支援し、もってわが国の情報通信技術の発展に寄与することを目的とする。

1990年創立時に構想した 公益財団法人 原総合知的通信システム基金 ～先進技術の融合と産業化への波及効果～



© George Hara 1981 Graduate School of Business Stanford Univ.

所在地
〒543-0028 大阪府大阪市天王寺区小橋町11-19
Phone・Fax 06-6765-5593
<http://WWW.hara-rf.jp>

東京事務所
〒105-0003 東京都港区西新橋2-6-2
ザイマックス西新宿ビル4F
Phone 03-5532-8898
Fax 03-5532-8851

連絡先
事務局長 田中 寛治郎
E-mail k-tanaka@hara-rf.jp